

販売高 8年連続100億 畑作部門は9%減 J A豊頃町

2019年5月23日

J A豊頃町（山口良一組合長、組合員251人）の通常総会が21日、同J Aで開かれた。2018年度の農畜産物販売高は、経営所得安定対策交付金を加え、17年度比4.2%減の124億2220万円だった。過去最高の17年度（129億6722万円）を下回ったものの、8年連続で100億円を突破し、15年度（127億7763万円）に次ぐ3番目の実績を記録した。

昨年度の農業生産は、春耕期の生育は順調だったが、6月からの日照不足、9月中旬以降は長雨や台風18号の影響でデントコーンの倒伏が発生するなどした。最終的にジャガイモは8.5%減の12億6139万円、豆類は7.4%減の12億3882万円、小麦は15.6%減の9億9880万円、ビートは4.2%減の7億7251万円（いずれも戸別所得補償含む）など軒並み前年度を下回り、畑作部門合計では9.1%減となった。

生乳は出荷量が0.4%増で、販売高は乳価の値上がりなどにより1.5%増の61億2354万円だった。畜産全体では0.1%減。当期末処分剰余金は1億7112万円となり、0.5%の出資配当を予定している。総会には委任状を含め161人が出席。山口組合長は「過去3番目を記録することができた。組合員の努力に敬意を表し、感謝したい」とあいさつした。

取扱高2.3%減152億円 野菜高値、畜産は最高 J A幕別町

2019年5月25日

J A幕別町の通常総会が24日、町民会館で開かれた。2018年度の農畜産物総取扱高（共済金など含む）は前年度比2.3%減の152億4300万円で過去3番目だった。

昨年度は6月から7月にかけての低温や長雨が影響し、多くの作物で減収・歩留まりの低下が見られた。野菜類は全国的に出回りが少なかったことで高値で推移した。

作物別では秋まき小麦の総反収が9.67俵（1俵60キロ、前年12.18俵）で製品率81.1%。ビートは1ヘクタール当たり70.8トン（前年75トン）で、糖分は17%と平年以上の結果となった。野菜は販売数量が前年比23.7%減の3万1201トン、販売額は1.1%増の46億9216万円だった。

生乳生産量は1.9%増の1万9886トン、家畜の取扱金額は3.2%増の32億1251万円で、畜産全体の取り扱いは52億1468万円で過去最高だった。経常利益は3億2555万円、当期末処分剰余金は3億757万円を計上した。新年度事業では労働力確保に向けて無料職業紹介事業・外国人技能実習制度の活用を進める。

総会には委任状などを含め324人が出席した。総会に先立ち、吉田良明さんに北海道報徳善行賞が伝達された。

販売高2.6%減39億円 最高の17年度に迫る J Aさつない

2019年5月25日

J Aさつない（高橋秀樹組合長、正組合員177人）の通常総会が24日、札内コミュニティプラザで開かれた。2018年度の農畜産物販売高は17年度比2.6%減の39億9700万円で、過去最高の17年度に迫る実績となった。

内訳は農産物20億1600万円、畜産物19億8100万円。品目別ではジャガイモ4億9800万円、ビート3億7700万円、小麦1億4100万円、豆類2億3000万円、生乳5億1700万円など。経常利益は計画以上の9107万円、当期末処分剰余金は1億235万円となった。

19年度の事業計画では、11月に完成予定の事務所建築

費や付属設備、外構工事等の費用などを承認した。

総会には書面を含めて121人が出席。高橋組合長は「現場に根付いた営農指導を進め、組合員の皆さんが希望の持てるような農業を振興していきたい」とあいさつした。